

二十世紀の新しい色

——合成有機顔料——

園 田 直 子

はじめに

1. 合成有機顔料の歴史

2. 合成有機顔料の分類と表記方法

3. 塗料・絵具における合成有機顔料の使用状況

4. 現代の絵具の色

おわりに

論文要旨

19世紀半ばにモーヴという合成染料が発明されてから、色の歴史は大きな変革を迎えた。とくに20世紀に入ってからは、従来の無機顔料に匹敵する堅牢性を持つ合成有機顔料が数多く出現している。これらの合成有機顔料は、今世紀半ばまでは専門家用絵具の素材としてはほとんど使用されていなかったが、合成樹脂を展色剤とする新しいタイプの絵具が開発され広く使用されるようになるにつれて需要が増えてきた。今では、専門家用絵具に使用されている合成有機顔料は少なくとも70種あまりある。日本のメーカーとアメリカのメーカーのアクリル絵具のマンセル測定値を比較してみると、現代の絵具の特徴として、色の多様性と同時に色の彩度が高いということがあげられる。また、色の傾向の差が最もはっきりしたのは赤色の絵具においてであった。現在総合的な便覧に登録されている顔料でも、専門家用絵具に使用されている顔料でも、種類が最も豊富にあるのは赤色の顔料であることから、現代の絵具の色を比較検討する場合、このように広い選択肢の中からの赤色顔料、すなわちどのような赤の色を選択したのかということが、個々の違いを最も端的にあらわす要素ではないかと考えられる。